



医学部進学予備校 **メビオ** 校舎責任者
高橋 元 氏

**模試の共同開催で
 全国区に広がる**

—2018年11月の提携から1年以上がたちました。変化はありましたか。

YMS七沢英文(以下、**Y七沢**) 自校の特徴はそのままに、互いに足りない部分を補っています。本校は関西の情報が少なかったのですが、メビオから提供してもらえようになっで、情報量が格段に増えましたね。
メビオ高橋元(以下、**M高橋**) メビオは関西、YMSは関東の大学に

合わせて模試を作成してきましたが、今回初めて共同開催しました。提携後は年間17大学の私立医学部をカバーできるようになりました。

Y七沢 模試の告知を両校で行い、本校の模試をメビオの生徒も受けてくれるようになりました。模試を受ける生徒の数が増えることで、データの精度が増すという効果も生まれています。

M高橋 大阪や九州の模試会場で関東の大学の模試を受けられるようになり、志望校が一気に全国区に広がっています。

Y七沢 今までもプロの講師が精査して問題を作っていたのですが、両校で実施することでライバル心が芽生え、さらにクオリティが高い問題を提供できるようになりました。問題分析の質も向上しましたね。

**聞き取り調査が倍増
 推薦入試の指導が充実**

—情報共有によるスケールメリットはほかにありますか。

M高橋 医学部の推薦入試は学科も課されるのですが、多くの大学では問題用紙を持ち帰ることができず、試験内容は一切公表されません。受験した生徒の聞き取りでしか内容を把握できないのです。提携してからは全国の大学を網羅できるようになりました。

Y七沢 規模だけでなく、両校のノウハウが有機的に機能するようになったことも強みです。医学部の推薦は増えているのですが、医系予備校の推薦対策は追いついていません。先生の経験や勘による指導が中心で、客観的なデータに基づいた講座を組んでいる予備校が少ないので

す。提携後、両校の受験生から提供された入試情報を基に講座設計やテキスト作成を行いました。昨秋、京都大医学部の特色入試を受験したYMS生は、メビオから情報の提供を受けたら、高橋先生から指導してもらい、二次突破しました。
M高橋 西日本は、まだ東日本ほど推薦枠が大きくありません。関東の流れを受けて、これから増加しそうです。

—教務上の交流もあるのですか。

M高橋 講師がお互いの予備校で教え合っています。私もYMSで授業を行いました。学ぶことが多かったですね。

Y七沢 プロの講師陣はプライドを持っていますから、それだけに相手を意識して、自校での授業にもよい影響を与えているようです。

**「専用寮」「医のアート」
 両校の特色ある学びとは**

—両校はそれぞれ、独自の特色ある教育を行っています。

M高橋 本校は1クラス7〜8人の少人数制で、手厚い指導を行っています。クラス分け(作り方)に特徴があり、例えば「数学が苦手な英語が得意」など、同じようなレベルの生徒を集めています。

学力だけでなく、勉強のスタイルや理解の速度、理解の質も考慮します。似たような生徒の集団を作ることで指導しやすくなり、効率も上がります。毎回課題を出し、次の週に

チェックして授業を定着させています。理解が足りなければ授業後に復習させたり、時には講師がつきつきで教えたりすることもあります。集団とともに個別に近い指導もしており、一人も落ちこぼさないのがメビオの強みですね。もちろん、テキストはすべてオリジナルです。

講師は授業の内容を、同じクラスを担当する全ての講師と共有します。全講師が「生徒が何につまずき悩んでいるか」を把握しているのが、多方面からの指導が可能になります。少人数制なので生徒同士気心も知れ、「良き仲間、良きライバル」として一致団結して受験に臨むという雰囲気があります。

Y七沢 YMSの特徴は担任制です。週に一度、担任と面談して理解度を測り、その生徒に応じて各課題の進捗状況をチェックして、生徒に合った勉強法をアドバイスしたり、理解が足りなければ課題を追加したりします。うまく指導に乗ってくれば1年で成績はかなり伸びますよ。

—メビオには専用寮、YMSには提携寮があります。

M高橋 校舎から徒歩2分の所に男女別の専用寮を3棟用意しています。それぞれ寮母が常駐。食事は校舎の食堂で、管理栄養士が立てた献立を3食提供しています。地方の生徒さんも安心して勉強できます。

提携により過去合格者数はのべ9500人超に！ 「東西の雄」YMSとメビオは 完全提携で何を指すのか

多くの生徒を医学部に送り込んできた医学部専門予備校。その東の雄「YMS」と西の雄「メビオ」が業務提携してから1年がたった。両校ともに約40年の歴史を持つ。教育の本身も、担任制によるきめ細かな指導を行うなど類似点が多い。提携により互いの特徴を保ちつつ強みを共有することで、様々な波及効果が現れている。両校トップのお二人に業務提携による変化、今後の展望などを聞いた。

—どんな内容ですか。

Y七沢 医療ボランティアなどです。昨年の夏休みは難病の患者さんの会と泊3日の旅行に出かけて、車椅子の移動、食事、入浴、排泄、就寝時に2時間おきに体位を変える補助なども行いました。これまで生徒が体験したことがない経験でしょう。こうした体験を通して生徒は医療人になるという自覚が生まれ、勉強に対するモチベーションが上がります。この経験は、面接や小論文で生きてきます。

**予備校選択のポイント
 は生徒を伸ばしてくれるかどうか**

—受験生とこれから医学部を目指す生徒や保護者へ、予備校選

びなどのアドバイスをお願いします。

Y七沢 まず親御さんですが、医学部入試は大きく変わっていることを理解してください。親世代は「国立が難しく私立は簡単」というイメージを持っているかもしれませんが、今は違います。旧帝大はともかく東京慈恵会医科大学、順天堂大などは、難易度で地方の国立大をしのいでいます。地方の国立大と首都圏の私立大に合格した生徒が私立大を選ぶケースも増えています。そのような背景を理解して、情報を持った医学部専門予備校を選ばれるのが良いと思います。

予備校には集団、マンツーマンなどの形態がありますが、お子さんが

どういう環境なら学力を伸ばせるか、性格も考えて選ぶと良いですね。オリジナル教材、プロ講師をうたっている予備校は多いのですが、生徒にきちんと学習させて一人ひとりを伸ばすノウハウを持っているかどうか、その点もチェックされると良いでしょう。

M高橋 まずは「いつまで授業があるのか」を確認してください。大手予備校の中には、12月で指導を終えるところもあるのですが、メビオは全ての入試が終わるまで生徒に伴走します。勉強だけでなくメンタル面もしっかりケアします。入試直前期にこそ生徒は講師を必要とします。

次に、授業のスタイルも重要です。本校はインプットした知識を徹底的にアウトプットさせることに重点を置いています。「分かる」だけでなく、「できる」ようになって、初めて「真の実力」といえます。正しくアウトプットできているかどうかを生徒が判断するのは難しい。少人数で、講師と生徒の距離が近いからこそ可能になると言えるでしょう。

最後に、今まさに試験直最中の受験生へアドバイスがあります。複数の大学を受けるとありますが、受験生は試験を受ける度に学力が伸びていきます。入試は真剣勝負ですから、

最も伸びる時期といえます。試験が終わっても気を抜かないですぐに解答速報をチェックし、今回のテストで何が足りなかったのかきちんと復習して次の試験に臨んでください。

Y七沢 確かに同じところでミスをしがちですね。入試にも流行があつて、同じテーマが他の大学で出題されることも多々ありますので、高橋先生が言うように試験後の復習は大切です。

M高橋 本校の解答速報は即日夕方には公開しますし、内容も国内随一のものでありと自負しています。YMSのHPと連携しており、互いの解答速報を閲覧することができると、問題発表のある私立医

大はほぼ全てカバーしています。成長する自分を信じて最後まで頑張ってください。

—今後の展望を教えてください。

M高橋 医学部受験、特に私立大学のスタンダードを目指します。両校が問題提供などで全面協力した「全国統一医学部テスト(主催)東進ハイスクール」は加盟予備校も増え、昨年は2回実施し、7000人超の生徒が参加しました。

Y七沢 提携をきっかけに両校が長年培ってきたノウハウをさらに多くの受験生に提供し、一人でも多くの「良医」を世に送り出したいと思っています。

学校説明会受付中

医学部専門予備校
YMS

毎週木・土・日
木 16:00~17:30
土日 10:00~11:30

医学部進学予備校
メビオ

毎週土・日曜ほか
全国70会場
13:00~15:00

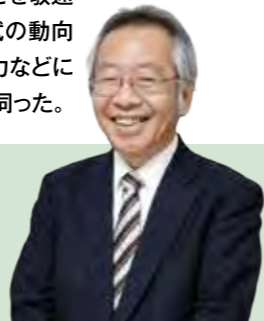
詳しくはホームページをご覧ください

※希望の方はお早めにお電話を

医学部受験を目指す中高生に必要な力とは

医師としての仕事に必須の英語や記述力を強化しよう

医学部の志願者数はここ2~3年減少傾向が続いている。あまりの入試難易度の高さに、成績だけで受験していた層が減少。さらには好調な経済を受けて、6年間も学び続けることを敬遠する層が増えていることが要因だ。今後の医学部入試の動向や、医師になるために中高時代に身につけておくべき力などについて、大学受験に詳しい大学通信の安田賢治さんに伺った。



大学通信 情報調査・編集部ゼネラルマネージャー 安田 賢治氏
1956年、兵庫県生まれ。灘中高、早稲田大学政治経済学部卒業後、大学通信入社。サンデー毎日の年間を通しての教育企画、週刊朝日、AERA、東洋経済、ダイヤモンド、プレジデント、プレジデントファミリー、エコノミストなどの中高一貫校や大学、就職特集への情報提供と記事執筆を行う。著書に「中学受験のひみつ」(朝日出版社)、『笑うに笑えない大学の惨状』(祥伝社新書)などがある。

景気に左右される医学部への志願動向

医学部の入試状況は景気に左右されます。近年の医学部人気は、リーマンショックによる経済状況の悪化が引き金となり、ほぼ同時期に行われた医学部の定員増によって医学部志願者数が急増していたことが原因です。現在は経済の上向き感があるため医学部人気は落ち着いていますが、経済が悪化すれば再び

び医学部人気復活するでしょう。

今後の医学部の志願状況については、様々な要因が重なっているため単純な予測はできません。例えば日本では少子高齢化が進み、人口自体も減っています。志願者数自体が減れば、医学部入試は今より易化するかもしれません。

しかし団塊の世代の医療需要が下火になれば、現在各大学に認められている臨時定員増の枠がなくなり、恒常的な医学部定員が減る可能性もあります。そうなれば医学部入試は一気に難化するでしょう。

社会の動きも気になります。現在、工学部の6年制が検討されていますが、もしそうなれば「同じ6年間なら将来が明確な医学部の方がいい」と志願者が増える可能性もあります。

さらに、人工知能(AI)の進化で医師の仕事内容は刻々と変化しています。診断や手術の多くの部分をAIやロボットが代替するようになれば、必要な医師数が減りますし、医師の仕事内容に魅力を感じなくなる人も出てくるかもしれません。このように医学部の入試動向は時代の変化に大きく左右される可能性があるのです。

私立大医学部人気で中高一貫校が有利に

首都圏の場合、私立大医学部の人気が高いことが大きな特徴です。国立大医学部は、東京大学、東京医科歯科大学、千葉大学、横浜市立大学など限られた大学しかなく、しかも入試偏差値が非常に高いのが実情です。ところが私立大医学部は全国の約半数に相当する16大学が1都3県に集中しており、様々な大学を選択することができるため私立大医学部を専願にする人が多いのです。

首都圏のもう一つの傾向として、私立中高貫校で医学部入気が高いことがあげられます。トップレベルの公立高校や国立公立中高一貫校などの成績優秀者は、東京大学など難関総合大学を目指すケースが多く、医学部人気は関西ほど高くありません。一方で私立中高一貫校では医学部入気が年々高まっているのです。

なぜなら私立中高貫校では、6年間かけてじっくりと学力を高めることができるからです。また、OB・OGなどを中心に医師の話を聞ける機会を数多く用意するなど、医学部受験に向けたサポートが充実。将来の職業としての医師の仕事に明確なイメージを描くこともできます。

もし首都圏で医学部を目指すのであれば、医学部志願者の多い私立中高一貫校は有力な選択肢といえます。1人で勉強していると途中で挫折しがちですが、一緒に医学部を目指す仲間が大勢いれば、励まし合って勉強を続けることができるからです。

入試改革の動向より英語や国語の勉強を

現在は大学入試改革が進行中です。英語4技能を測定する民間試験の利用が延期され、大学入学共通テストへの記述式の導入も見送られるなど、大きな混乱が続いています。

新学習指導要領の実施以降は「情報」が入試の必須科目になる可能性もあります。さらに政府は25年度までに、公立の小中学校でタブレットやパソコンを1人1台使える環境を整備すると計画を発表しています。将来的にはタブレットやパソコンなどを使って解答するようになるかもしれません。

このように入試のあり方は様々な変化していく可能性があります。しかし、だからと言ってそのことに過敏に反応するのは無駄です。むしろ、大学入試がどう変わろうとも、医師として将来必要になる力を伸ばすのに努力を向ける方が賢明といえます。

グローバル化が進む現代は、医師にも高い英語力が求められます。最新の医療情報は英語で発信されますし、今後は外国人労働者も確実に増えます。そう考えると、中高6年間で英語の力を伸ばしておくことは必須といってもいいでしょう。

また、患者さんの希望を聞いた上で必要な情報を伝達し、互いに納得できる方法で治療していくためには、高いコミュニケーション能力が求められます。国語力や記述力も極めて重要です。そう考えると、私立大医学部だから、数学と理科だけをしっかりとやっければいいということにはなりません。

今後、国立大医学部では推薦入試やAO入試の割合が増えることも予想されています。こうした入試に挑むには、スポーツやボランティア活動なども含めた高校生活全体を充実させることが必要です。つまり、国語や地歴・公民も含め、高校の全教科をしっかり勉強しておくことが重要になるのです。

医学部を志望する動機は人それぞれでしょうが、基本的には「困っている人を助けたい」という気持ちがあるはず。それを忘れずに、充実した中高時代を過ごしてほしいと思います。

医学部受験で “失敗しない” 予備校選びを



医学部合格に実績ある有力予備校が集結



2019年度の医学部入試の志願者数は国公立、私立大学ともに減少しました。国公立は5年連続、私立は18年から減少に転じ、19年は実数で8千人以上の大幅な減少となりました。

この主な要因として、センター試験の実施日が昨年よりも週間後ろにずれの影響で、例年2月上旬までに実施する私立大の一般入試1次試験の日程が重複した大学が多く、受験生が併願できる大学が少なくなったことが挙げられます。また18年に発覚した、女子や多浪の受験生に対する不適切な入試の対応の影響も志願者数減につながったと考えられます。

しかし、入試の志願者数が減ったからといって試験の難易度が下がった訳ではありません。競争倍率も国公立大前期日程で4.4倍、私立大では15倍と依然厳しい競争が続く、合格するにはこれまでと変わらない高い学力が求められています。このように入試における変化が見られるとはいえ、医学部人気は当分の間、続くと思われまます。

東京と大阪で開催する「医学部受験予備校合同相談会」では、多くの合格者を輩出した実績と豊富な経験を持つ有力予備校を一堂に集め、個別相談を受け付けます。同時開催のセミナーでは、各予備校の指導方針・特色あるカリキュラムや学習環境などについてもお聞きいただけます。ぜひこの機会に皆さんにあった予備校を選んで、二日も早く受験対策をスタートさせてください。

会って、話して、比べてみる 予備校選びはここからスタート!

医学部受験 予備校合同相談会 **参加無料**

申込不要 個別相談

要申込 予備校別 セミナー

主催 日本経済新聞社イベント・企画ユニット

お問い合わせは 医学部相談会事務局 TEL.03-5330-8022
(受付時間 平日10:00~18:00 土・日・祝日を除く)

詳細・事前申し込みは <http://esf.nikkei.co.jp/e/igakubu/> 日経イベント&セミナー 検索

東京 秋葉原UDX カンファレンス(UDX6F)
東京都千代田区外神田4-14-1
セミナー申込締め切り **2/9(日)** 開場 **10:00~16:00** (15:30 最終入場)
参加予備校 ●ウイングダム ●河合塾 ●京都医塾 ●進学塾ビッグパン ●メディカルフォレスト ●YMS

大阪 ホテルグランヴィア大阪 20階 展示会場
大阪府大阪市北区梅田3-1-1
セミナー申込締め切り **2/17(月)** 開場 **10:00~16:00** (15:30 最終入場)
参加予備校 ●一會塾MEDICAL ●大阪医歯学院 ●河合塾 ●京都医塾 ●進学塾ビッグパン ●Medi-UP(メディアアップ) ●医進予備校MEDIC ●メルリックス学院大阪校

選ばれる予備校最終決定戦 特別協賛 河合塾
特別講演 「2021年国公立・難関私立医学部合格を目指すキミたちへ」
東京 AP新橋 東京都港区新橋1-12-9
申込締め切り **2/24(月・休)** 開場 **10:00~16:00** (15:30 最終入場)

予備校別セミナーは事前申込制、個別相談会場の入退場は自由となります。
※予備校別セミナーは申込者多数の場合は抽選となります。申込締め切り後、抽選結果メールをお送りします。当選の発表は抽選結果メールへの記載をもって代えさせていただきます。

日経マガジン 医学部受験特集号 ★読者プレゼント
本特集に関するアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で図書カード2,000円分を10名様にプレゼントします。
◎応募締切…2020年3月8日(日)
※お申し込みは一人につき1回でお願いします。※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

★ご応募はこちらのサイトより申し込みください。
<http://adnet.nikkei.co.jp/>
または、日経アドネット 検索